今月の１枚（2018 年 4 月）

白鳥と対面するブラックスワン（彦根城お濠）

写真提供（撮影）：久保英也（滋賀大学経済学部教授）
文：宮崎隆介（JRMN 会員）

昨年の秋、日本リスク研究学会(日本保険学会と共同で彦根市の滋賀大学で開催)の年次大会に参加した折、「ブラックスワン」のことを初めて知った。

数学者でもある金融トレーダーのナシーム・ニコラス・タレブが 2007 年に刊行した「ブラックスワン」の中で、イギリス人がかつて見たことのない「黒い」白鳥の実在を知り衝撃を受けた[注]ことになぞらえ、これを「ほとんど起こりえないが、起これば大きな影響を及ぼす事象」と定義している。この本は 2008 年のリーマンショックなど国際金融危機を予測したことで有名になった。

注：スコットランド人のキャップテン・クックが 1770 年にオーストラリアに上陸し、初めて目にしたという

国際金融事象だけでなく、2011 年の東北大震災と福島原発事故など自然災害や人為事故（チェルノブイリ原発事故もその最たるものである）においても「ほとんど起こりえないが、起これば大きな影響を及ぼす事象」がある。

リスクには、我々が〈リスクであることを知っているリスク〉（known knowns)、と我々が〈知らない（経験したことがない）ことを知っているリスク〉（known unknowns）の他に、〈リスクであることを知らないこと自体を知らないリスク（unknown unknowns)、いわゆる〈想定外〉のリスクがある。我々は「想定の範囲」を拡大し、「想定の範囲外」を限りなく小さくしていくことが大事であるが、どこまで行っても〈unknown unknowns〉が残ることを覚悟し、その場合にうろたえない心構えが必要である。

【参考】「日本保険学会・日本リスク研究学会 2017 連携大会・連携プログラム」